

東常縁と下総千葉氏の本佐倉城移城

千葉氏本家の滅亡後、将軍足利義政に仕えていた千葉氏一族の美濃東氏の東常縁は、美濃国の兵を連れて下総国に向かい、馬加康胤を攻めました。当初、常縁は康胤を討ち、戦いを有利に進めていましたが、その途中、常縁の本拠地であった美濃国郡上郡の領地を美濃守護代によって奪われたため、美濃国に戻り領地を取り戻します。常縁が美濃国の領地に戻った後、下総国内は、本家を継いだ康胤の子孫が統一しますが、康胤の子孫は戦乱によって荒れた千葉城を離れ、新たに印旛沼南岸の本佐倉に城を築き、本拠地を移します。佐倉は、印旛沼の水路で古河とつながっていましたが、この移城は、古河公方との関係を深める意味もありました。



東常縁像 兼性寺蔵

東常縁は、美濃東氏の当主。足利義政の御教書を得て、下総に下向。馬加康胤を討ったが、応仁の乱を契機に美濃に帰郷。歌人。連歌師の飯尾宗祇に古今伝授を行なったことで知られている。



本佐倉城跡

印旛部酒々井町 佐倉市大佐倉

千葉介胤直の名跡を継いだ馬加系千葉氏は、文明年間本拠地を千葉から佐倉に移した。以来、小田原合戦まで、この城を本拠地とした。